

平成25年度

学校だより

第15号

2013年8月10日

ヒューストン日本語補習校

佐久市中学生研修団 来校

8月3日午前、昨年に引き続き長野県佐久市中中学生研修団が来校しました。2校時は各学年の教室に入り（中3一名中2一名中1九名）一緒に授業を受け、3校時は中1教室で座談会という日程でした。



<座談会開始時 研修団9名の自己紹介>

座談会は4つのグループに分かれてのフリートーク、なぜか日本の話題が多かったようです。



3校時終了後、引率者も含む全員に感想を書かせていただきました。副団長さんの感想には「補習校の皆さんはとても積極的でびっくりしました。」とありました。

中学部の生徒の皆さんや担任の先生のお陰で、研修団にとっても補習校中学部にとっても、得るものが多

い2、3校時だったと思います。

<寄せられた感想から>

- ・授業の進度がすごく早くてけっこう大変だった。
- ・嵐、アニメなど日本とかわらない会話ができる。
- ・授業や座談会で楽しく過ごせた。
- ・授業は緊張したがフリートークは本当に楽しかった。
- ・みんなが笑顔で授業を受けている所が良かった。
- ・みんなやさしかったのでとてもうれしかった。
- ・補習校は良い経験になった。（日本人学校経験者）
- ・みんなとてもフレンドリーで面白かった。
- ・クラスの皆が仲良く、私にも仲良く接してくれた。
- ・国際性を身に付けるには「語学力よりまず社交性」を痛感した。（団長）
- ・昨年同様、皆さんがとても明るく勉強されていることや自分の意見をはっきり発言できることが素晴らしいと感じた。（添乗員）

宇宙飛行士講演会 のお知らせ

講師 JAXA 金井宣茂 宇宙飛行士

「君も宇宙に行ってみませんか？」
～国際宇宙ステーションへの招待～

8月24日（土）

補習校ホール・アトリウム

13:30-14:00 受付

14:00-15:30 講演

- ・一時帰国等で参加意向調査票を提出できなかったご家族はぜひご参加ください。
- ・意向調査に記入した人数が増えてもかまいません。
- ・興味関心のある方をお誘いいただき、一緒にご来場ください。



訂正 前号漢検合格者、中3山田若菜さんが中1となっていました。お詫びして訂正致します。

先生方の投稿 ④

女性が働くということ 1年A組担任 熊谷芳江

「そろそろ完全に仕事を辞めて孫と遊ぶ生活をするのはどう。時間は戻ってはこないのよ。」と、2歳児をもつ娘に言われます。こう言われたとき、いつも私の脳裏にかすむのは「そうね。あなたが小さかった頃は、母さん働いていたものね。」という、何か子供たちに幼少のころに侘しい思いをさせてしまった、という罪悪感です。どんなときでも、家庭を第一に考えてきたという自負の思いからすれば、そんなに自分を責めなくても(罪悪感なんてとんでもない)と自分に言い聞かせるのだけれど、昔も今も変わることなく同じ思いが脳裏に浮かぶのです。

子供が中学生高校生になると親から手が離れ、「ああ、これでやっと自由になれる。」と思えるのでは・・・と期待していたのは、とんでもないことでした。今度は、以前よりももっと密着して子を見守らなければならないことを思い知らされました。息子や娘の中学、高校時代をよく覚えているのは、それだけ印象の強い日々を過ごしたからではないでしょうか。迷いの多い日々であったからではないでしょうか。それでも、この先にやってくる大学の授業料や学費のこと、自分たちの老後のことを考えると仕事を止めるわけにはいかなかったのです。

今思うと、「あなたたちの大学の授業料や学資は責任を持ったのだから、幼少時代に母親がそばにいなかったことは許してね。」それだけです。

力いっぱい仕事に没頭してみたいといつも思っていた一方、「家庭」という言葉がいつも私の中にありました。世

◆パトロール当番予定表 8月17日◆

これは8・9月当番一覧表に記載された予定です。変更の場合はこの表とは異なりますのでご注意ください。

学年	順位	児童生徒氏名	
★AM1リーダー 小2	2	片岡伸太郎	
	3	佐藤麟之介	
	4	竹内 壮斗	
	5	中村隆太郎	
	6	本村 宇	
	8	ｲﾝﾀｰﾏｰ友理	
	9	安達 楓香	
	★PM1リーダー 小2	10	谷川こころ
		11	スミス英美
12		石井 輝	
13		大谷 未祈	
14		村田 茉優	
15		田中 晃陽	
16		ﾄﾞﾘﾞﾞﾞｽ美雅	

の中には、「家庭」と言う言葉を背後にもちながら仕事で成功している女性がたくさんいます。そういう女性を私は尊敬します。そして、そういう女性がどうやってこの「家庭」と「仕事」と間を切り抜けてその仕事を成功させてきたのか知りたいと思います。どんな環境に生まれて、どんなふう育てどんな家庭を築いてきたのか。どれほどの精神力の強さを必要とされたのであろうかと。

娘は力いっぱい仕事をしたいのだと思います。だから私に、「孫といる時間は戻ってこないのよ。」などと言ったのでしょうか。娘の場合は、安心して子供を預けられる親がいるからよいかも知れませんが、働きたいと願う多くの女性が私達と同じ環境にあるとは限りません。娘だって、母親がそばに住んでいなかったらそう簡単にこんな言葉は出てこなかったのではないのでしょうか。

娘に女性が働くという重みを知ってほしいと思います。しかしその一方で、「小さい頃は、あなたも頑張ってくれたのだから、今度はご褒美に孫を見てあげてもいいよ。」と答えた方が正解なのかとも思います。

娘もまた「仕事」と「家庭」の両立を考え始めつつあります。

生徒作品 (今週の新聞記事を読んで)

～読んだこと～ 中1 柿仲菜々美

<記事のタイトル>

富士山入山料 1000 円で試行

<記事への感想・意見>

富士山の環境保全のために、



入山料を払うことは必要だと思うが、その前に、一人一人が富士山を汚さないことを心がける事の方が大事だと思う。例えば、ゴミは必ず持ち帰るとか小さな事でも自分のできる「富士山を守る事」をすればいいと思った。

学籍 転出 幼星：岩佐和 小2 A：古谷颯太

2 B：岩佐晴 4 A：岩佐美亜

転入 幼星：スコット仁 片岡なつみ

幼宙：有田想 小1 A：中溝匠 スコットさくら

2 B：大森太朗 2 C：有田煌 5 B：塚谷朋香

6 B：仲田美羽 中1：塚谷萌衣

在籍数 (8月10日現在) 372名

幼35名 小242名 中66名 高29名

Japanese Language Supplementary School of Houston

12651 Briar Forest Drive, Suite 105, Houston, Texas 77077

Tel.281-531-6743 / Fax.281-531-6795 (事務局 火～金曜日)

Tel.Fax 713-973-0659 (職員室 土曜日のみ)

E-mail: jlssh@jeihouston.org

Home Page: www.jeihouston.org

H.P.に於て学校便りをカラーでご覧になれます。

(文責 : 校長 山岡 清孝)